

表 9. 各施設において 6 年制課程導入前に受け入れた卒前実習および卒後研修

| | 受け入れ状況 [%] | | | | 受け入れ期間 (回答数) | | |
|------|----------------|----------------|--------------|-------------|-----------------|---------------|------------|
| | あり | 無し | 不明 | 無回答 | | | |
| 卒前実習 | 665 [90.8%] | 46 [6.3%] | 16 [2.2%] | 5 [0.7%] | ~4 週 (674) | 4 週~ (78) | 不明 (13) |
| 卒後研修 | 96 [13.1%] | 611 [83.5%] | 20 [2.7%] | 5 [0.7%] | ~6 ヶ月 (85) | 6 ヶ月~ (14) | 不明 (3) |

表 10. 各施設での実習費と支出のバランスに関する集計

| 選択肢 | 回答数 [%] |
|------------------|-------------|
| 十分な額面である | 91 [12.4%] |
| 実習費の支出とほぼ釣り合っている | 135 [18.4%] |
| 不足している | 89 [12.2%] |
| 不明・該当せず | 293 [40.0%] |
| 無回答 | 113 [15.4%] |

表 11. 各施設における実習日誌および SBOs 達成度の管理方法

| | 回答数 | |
|------------------|------|-----------|
| | 実習日誌 | SBOs 達成状況 |
| 実習ノート (製本されたもの) | 137 | 146 |
| 実習ノート (バインダータイプ) | 305 | 275 |
| 管理用 WEB システム | 454 | 453 |
| 管理用 WEB 以外の電子媒体 | 19 | 16 |
| その他 | 11 | 25 |
| 無回答 | 9 | 11 |

表 12. 各種管理方法の便利な点・不便な点

| 管理媒体 | 便利な点 | 不便な点 |
|------------------|--|---|
| 実習ノート (製本されたもの) | 1) 記載の自由度が高い。 2) 持ち運びに便利 | 1) コメント記入がしにくい。 2) 実習生が持ち帰ると参照・コメント記入が出来ない。 |
| 実習ノート (バインダータイプ) | 1) 記載の自由度が高い。 2) 持ち運びに便利一部を取り出してコメントを記載することが出来る。 | 1) (資料などで) 分厚くなりやすい。 2) バラバラになるので散逸のリスクがある。 |
| 管理用 WEB システム | 1) いつでも (自宅からでも) 記入が出来る。 2) 記入が容易。 3) SBOs のチェック漏れが見つけやすい。 | 1) PC の数が少ないと記入に時間がかかる。 2) 慣れるまでが大変。 3) スケジュールの設定が面倒。 4) 大学によりシステムが異なり対応が大変。 5) SBOs 評価項目が多すぎて時間を取られる。 6) コピーペーストになりやすい。 |
| その他の意見 | 1) 複数校受け入れたときに実習日誌や SBOs 達成状況の管理方法がそれぞれ異なるのは対応が大変。統一して欲しい。 2) 毎日の記入が負担になる。簡略化できないか? | |

表 13. 各施設で利用した実習受け入れ施設の割り付け方法

| 割り付け方法 | 回答数 |
|-------------------------|-----|
| a) 実習調整機構を経由 | 493 |
| b) 実習調整機構を経由せず、大学と個別に調整 | 116 |
| c) a)と b)の両方 | 99 |
| d) その他 | 4 |
| 無回答 | 20 |

表 14. 各施設で利用した割り付け方法の便利な点・不便な点

| 割り付け方法 | 便利な点 | 不便な点 |
|--------|---|---|
| 調整機構 | 1) 手続きが簡便である。 2) 実習受け入れ人数の希望を出すことが出来る。 3) 近隣の学生が割り当てられるため通学の負担が軽い。 4) 複数大学から受け入れる事が多く、実習生の緊張感を保てる。 | 1) 割り付け決定が遅いこと。 2) 学生の希望が通らずモティベーションに影響すること有り。 3) 必ずしも希望人数が来るとは限らないため計画を立てにくい。 4) 受け入れ大学が偏ること有り。 |
| 大学との契約 | 1) 大学教員とコミュニケーションを取りやすい。 2) 学生の希望が通りやすい。 3) お互いに実習内容を理解した上で実務実習を開始できる。 | 1) OSCE 不合格などでキャンセルが生じるケースがある。 2) 同じ大学の実習生ばかりになり緊張感が保ちにくい。 3) 学生宅から遠くなることもある。 |

表 15. 実習施設と大学の連携の現状

| 連携の内容 | 回答数 |
|------------------------|-----|
| a) 担当教員の実習施設訪問（概ね3回程度） | 611 |
| b) 指導薬剤師の実習成果発表会への参加 | 324 |
| c) その他 | 94 |
| 無回答 | 27 |

その他の内容：学部教育へ指導薬剤師参加、セミナー勉強会、連絡会・検討会、教員が施設で業務を行う、施設での発表会の参加、メールでの連携、卒論生の受け入れ、院内地域薬薬連携研修講習会へ学生とともに参加、など

表 16. 実習施設と大学の人材交流に関する具体的な意見

-
- 1) 看護師の実習の様に大学教員が頻繁に実習先に足を運び、実習を進めていくスタイルが少しでも取り入れられればと思います。
 - 2) SGD のような講義やポートフォリオは大学の教職員も参加して欲しい。病院業務を理解して欲しい。事前学習を指導する大学教員は、定期的ではなく長期の実務経験を積んだ上で指導に当たると、現場の薬剤師及び実習生をより理解できると思われる。事前学習でのやり方が変わってくるはず。
 - 3) 事前学習でこういったことをどの程度教えられてくるのかを実習先が知ることで、学生が習得できていないだけなのか、習っていないのかの判断がしやすくなると思う。いわゆる事前学習だけでなく、基礎薬学の中でも、その知識が臨床でどのように関連するのかを概略で教えられるように、基礎の先生たちとの情報交流もあった方が良いと思う。(例えば、分析化学での白濁を確認することなどが配合変化の基本となることや、衛生薬学などで学ぶ疫学分野・統計解析がメーカーからのデータの理解に必要なことなど教えておいてもらえば、それぞれの講義そのものにもより興味を持ってくれやすいのではないかと思う)。
 - 4) 実習施設に対して大学側の人材も少ないため、病院薬剤師が教育現場に参加できるような体制作りができると良い。(ただし、派遣できるだけの人員の余裕はないが...)
 - 5) 人材交流をできるほど薬剤師の数がそろっていないため、結局できるのは大学病院等大きな施設しか実施できないないと思われまます。
 - 6) 大学教員は実習状況のチェックのみであり、実習における指導は全て実習施設に依存しているように感じられます。実習施設側としては、学生は何をどのように学んできたのかということや、人間性の涵養においてどのように関わっているのかをもっと情報提供していただきたい。6年制の薬学生の教育においては、4年制の場合と比べて、なにがどのように変わっているのかをもっと情報提供していただきたい。
-

表 17. 各薬局において 6 年制課程導入前に受け入れた卒前実習および卒後研修

| | 受け入れ状況 [%] | | | | 受け入れ期間 (回答数) | | |
|------|----------------|----------------|---------------|-------------|-----------------|--------------|-----------|
| | あり | 無し | 不明 | 無回答 | | | |
| 卒前実習 | 145 [57.5%] | 69 [27.4%] | 38 [15.1%] | 0 [0%] | ~2 週 (140) | ~4 週 (24) | 不明 (5) |
| 卒後研修 | 12 [4.8%] | 221 [87.7%] | 18 [7.1%] | 1 [0.4%] | ~6 ヶ月 (7) | 6 ヶ月~ (1) | 不明 (4) |

表 18. 各薬局での実習費と支出のバランスに関する集計

| 選択肢 | 回答数 [%] |
|------------------|------------|
| 十分な額面である | 21 [8.3%] |
| 実習費の支出とほぼ釣り合っている | 41 [16.3%] |
| 不足している | 32 [12.7%] |
| 不明・該当せず | 90 [35.7%] |
| 無回答 | 68 [27.0%] |

表 19. 各薬局における実習日誌および SBOs 達成度の管理方法

| | 回答数 | |
|------------------|------|-----------|
| | 実習日誌 | SBOs 達成状況 |
| 実習ノート (製本されたもの) | 80 | 81 |
| 実習ノート (バインダータイプ) | 130 | 107 |
| 管理用 WEB システム | 152 | 160 |
| 管理用 WEB 以外の電子媒体 | 7 | 5 |
| その他 | 1 | 4 |
| 無回答 | 13 | 17 |

表 20. 各種管理方法の便利な点・不便な点

| 管理媒体 | 便利な点 | 不便な点 |
|------------------|--|---|
| 実習ノート (製本されたもの) | 1) 記載の自由度が高い。 2) 持ち運びに便利 | 1) コメント記入がしにくい。 2) 実習生が持ち帰ると参照・コメント記入が出来ない。 |
| 実習ノート (バインダータイプ) | 1) 一部を取り出してコメントを記載することが出来る。 | 1) (資料などで) 分厚くなりやすい。 2) バラバラになるので散逸のリスクがある。 |
| 管理用 WEB システム | 1) いつでも (自宅からでも) 記入が出来る。 2) 記入が容易。 3) SBOs のチェック漏れが見つけやすい。 | 1) PC の数が少ないと記入に時間がかかる。 2) 慣れるまでが大変。 3) スケジュールの設定が面倒。 4) 大学によりシステムが異なり対応が大変。 5) SBOs 評価項目が多すぎて時間を取られる。 6) コピーペーストになりやすい。 |
| その他の意見 | 1) 複数校受け入れたときに実習日誌や SBOs 達成状況の管理方法がそれぞれ異なるのは対応が大変。統一して欲しい。 2) 毎日の記入が負担になる。簡略化できないか? | |

表 21. 各薬局で利用した実習受け入れ施設の割り付け方法

| 割り付け方法 | 回答数 |
|-------------------------|-----|
| a) 実習調整機構を経由 | 193 |
| b) 実習調整機構を経由せず、大学と個別に調整 | 18 |
| c) a)と b)の両方 | 24 |
| d) その他 | 5 |
| 無回答 | 13 |

表 22. 各薬局で利用した割り付け方法の便利な点・不便な点

| | 便利な点 | 不便な点 |
|--------|---|---|
| 調整機構 | 1) 割り振りの手間がかからない。 2) 近くに住んでいる学生が配属になりやすく、通勤に便利となる。 3) 自施設でできないLSを行なう為の集合実習も同時に調整してもらえる。 | 1) 割り当ての判明が遅いこと。 2) 希望した人数がくるとは限らない。 3) 学生の希望は通らない。 4) 近い学生が割り振られやすく、実習施設に実習生の知人が患者として来局して気まづくなることもある。 |
| 大学との契約 | 行なっている施設が少なく、具体的意見は記載されていなかった。 | |

表 23. 薬局と大学との連携の現状

| 連携の内容 | 回答数 |
|------------------------|-----|
| a) 担当教員の実習施設訪問（概ね3回程度） | 207 |
| b) 指導薬剤師の実習成果発表会への参加 | 132 |
| c) その他 | 24 |
| 無回答 | 21 |

その他の内容：実務実習事前説明会、共同研究、など

表 24. 薬局と大学の人材交流に関する具体的な意見

| |
|---|
| 1) 教員が実務を理解し、指導薬剤師が教育方法を学ぶ為にも人材交流は望ましいと考える。 |
| 2) 臨床研究などで大学の協力を得られるとよい。 |
| 3) 情報交換会などが行なえるとよいのでは。 |
| 4) 交流は望ましいが、人員や業務環境を考えると、負担が大きく現実的では無いのでは。 |
| 5) 現場に来るのであれば十分なトレーニングをしてからにして欲しい。 |

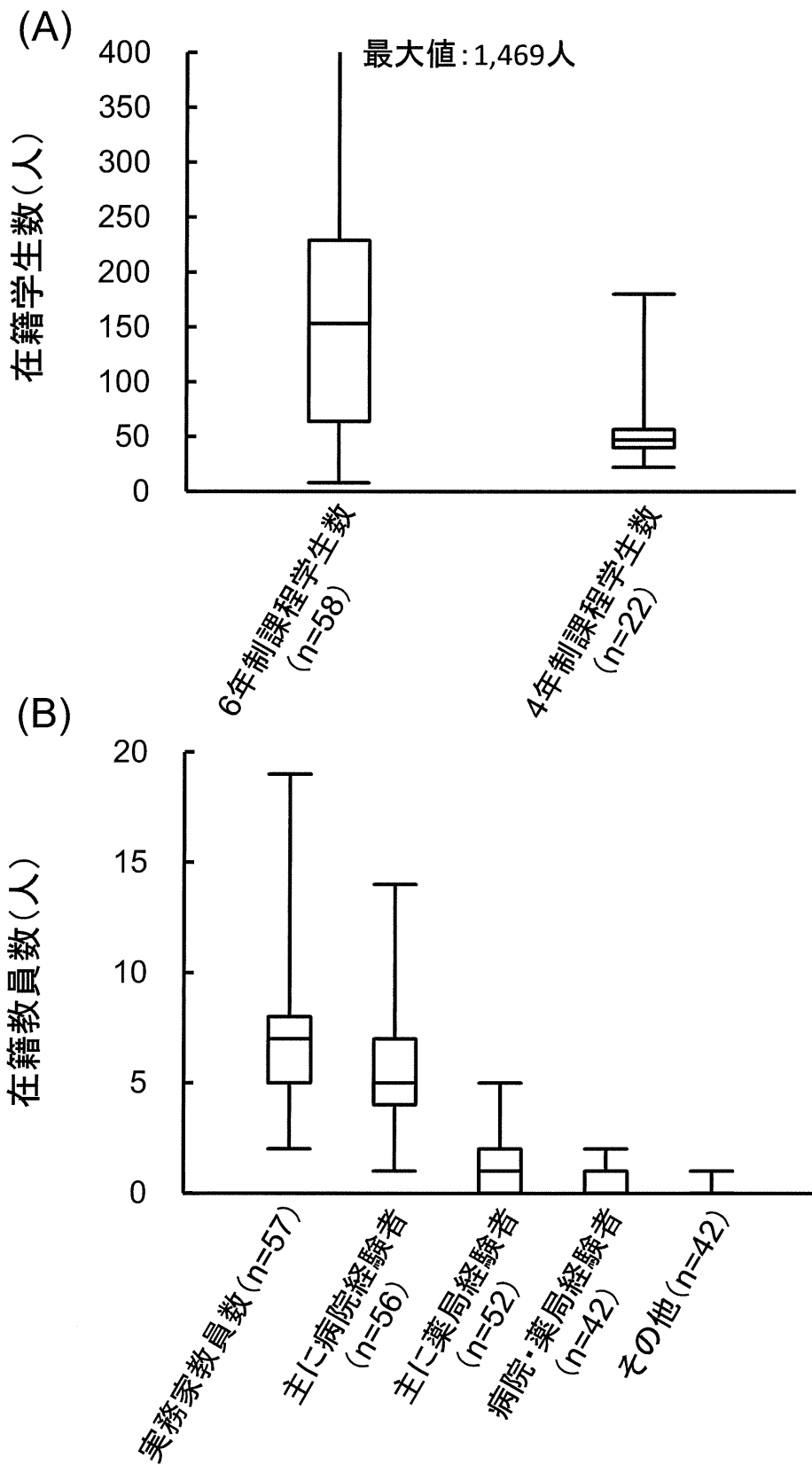


図1. (A) 各大学の6年制課程および4年制課程の在籍学生数。(B) 各大学の実務家教員数および実務経験内容による分類。

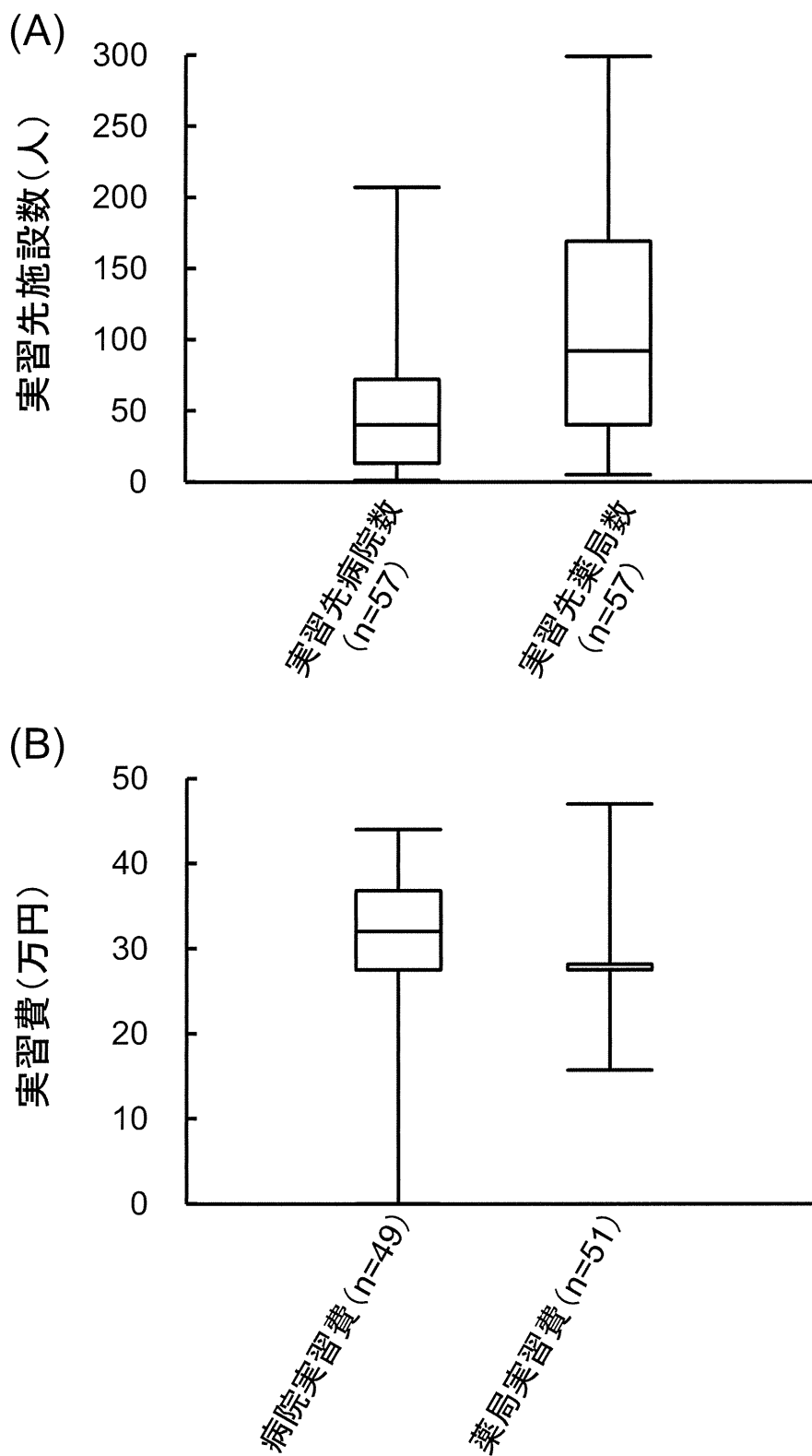
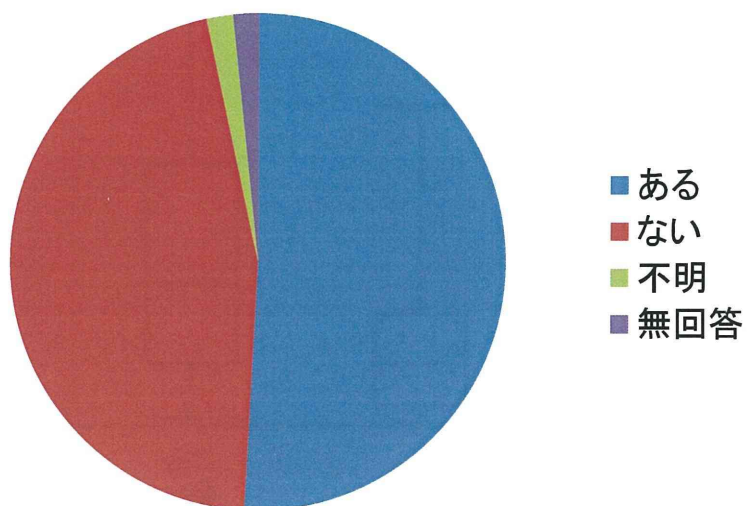


図2. (A) 各大学の実務実習受け入れ病院数および薬局数。(B) 各大学が実習受け入れ施設に対して支払った実習費の額面。

(A)



(B)

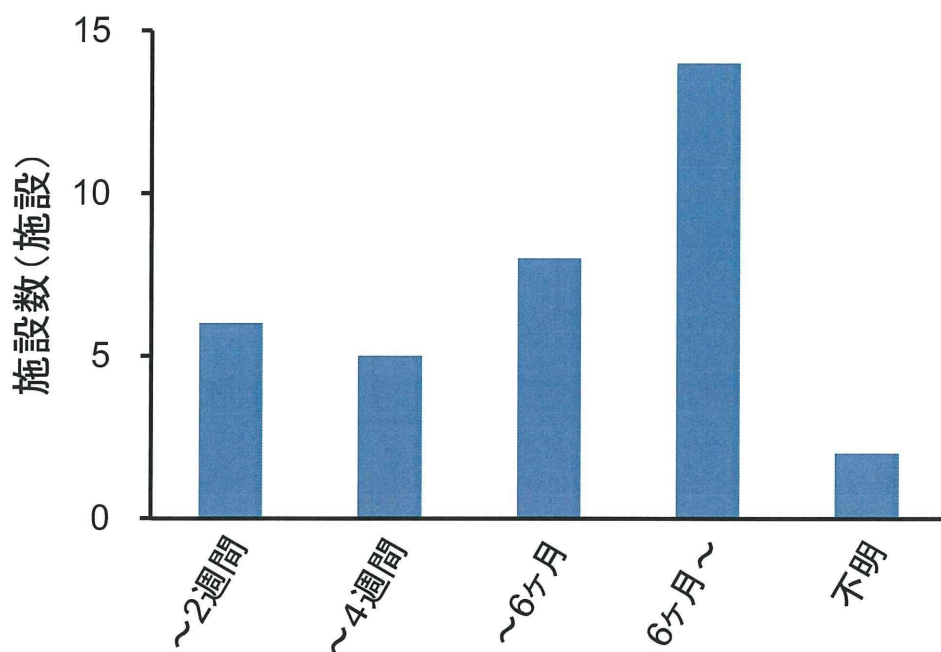


図3. (A) 旧4年制課程の学生に対する実務実習の実施状況 (n=59)。(B) 旧4年制課程の学生に対して実施した実務実習の期間の分布。

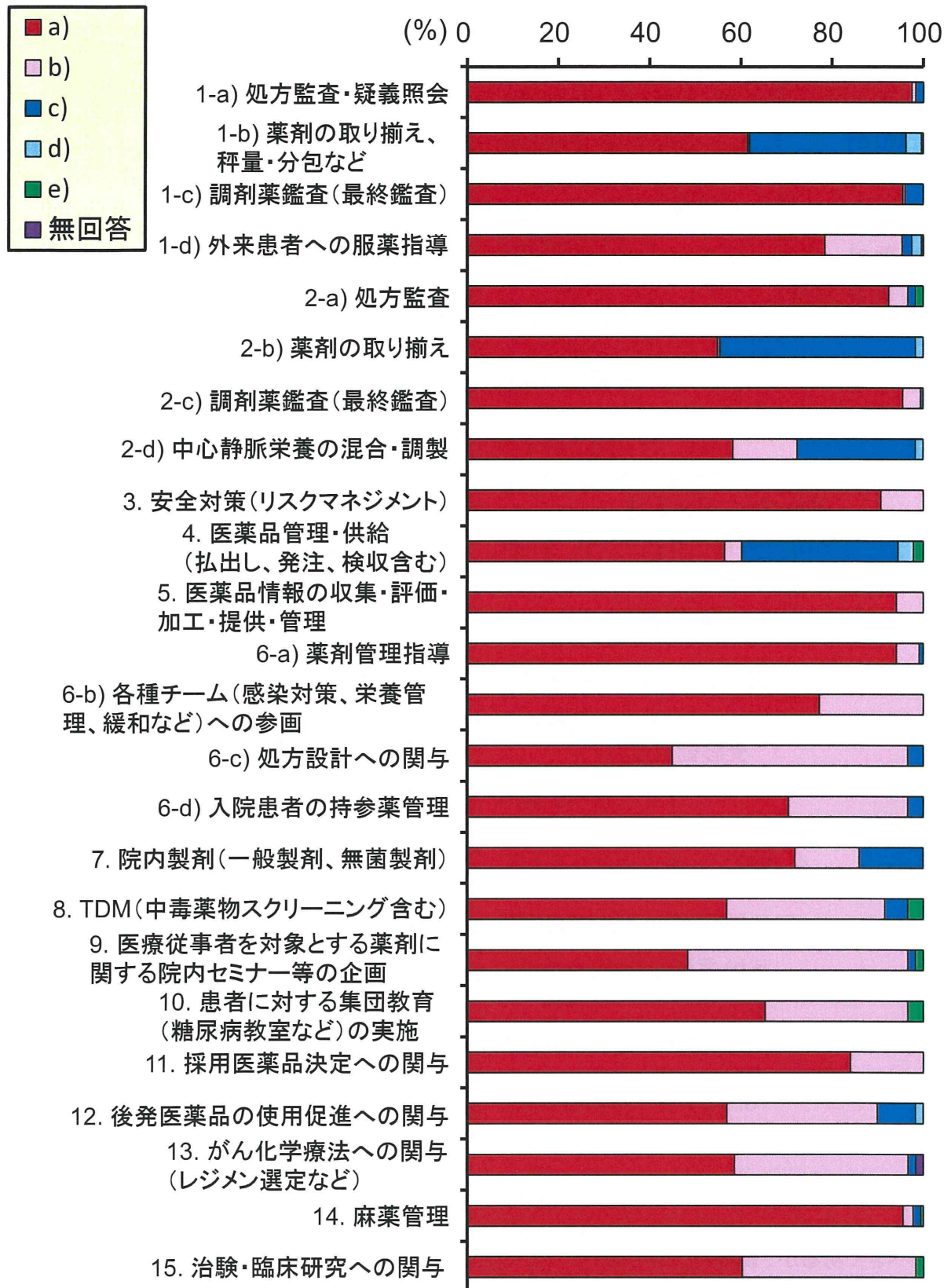


図4. 大学実務家教員に対する病院薬剤業務に関する意識調査(設問6-A前半)の集計結果。
 a) 主たる実施者として関与すべきであり、現在も大きく関与している、b) 主たる実施者として関与すべきであるが、現在はあまり関与していない、c) 現在、主たる実施者として大きく関与しているが、関与の必要性について検討すべきである、d) 現在、主たる実施者としてあまり関与しておらず、積極的に関与すべき役割では無いと考える、e) その他。

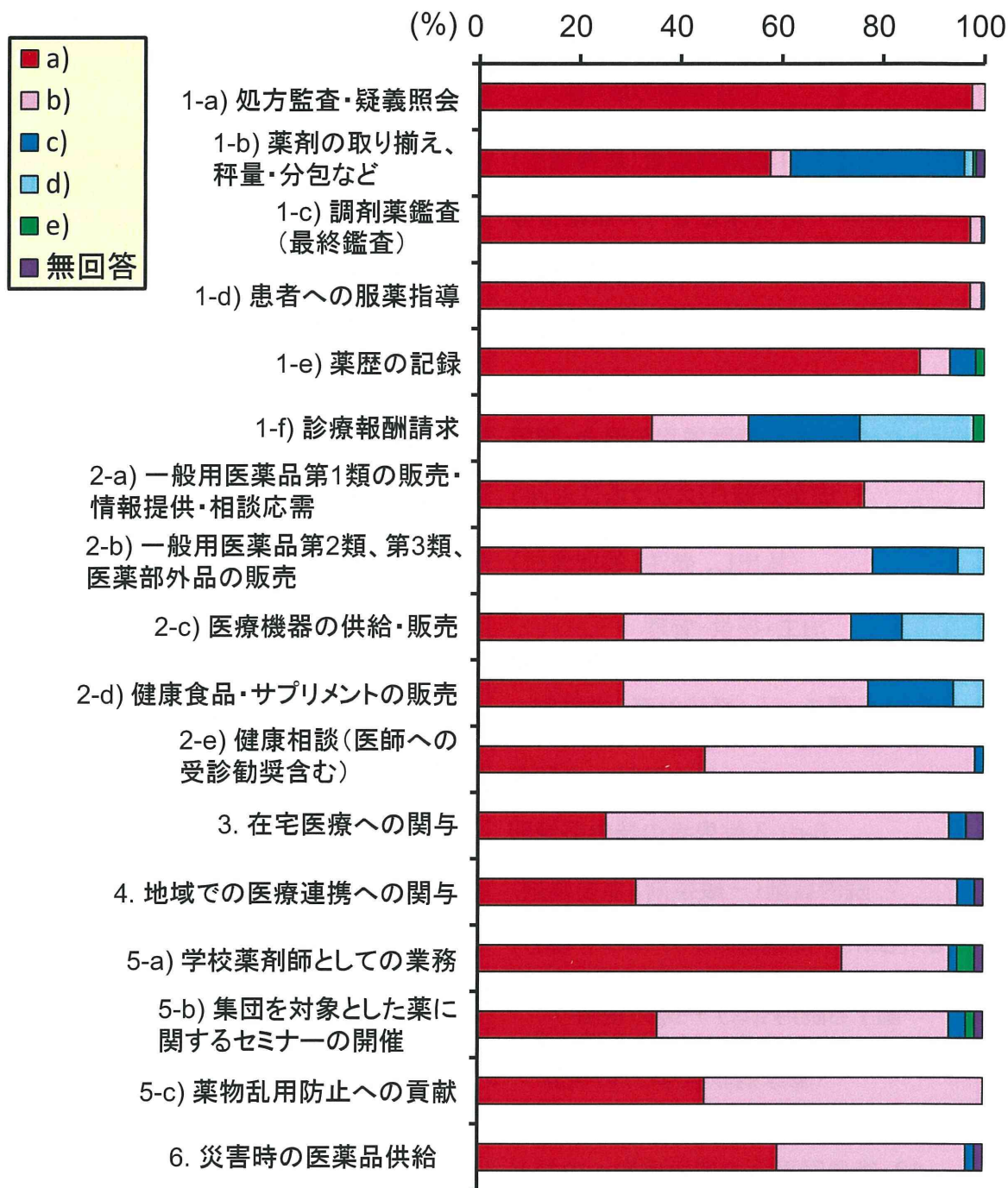


図5. 大学実務家教員に対する薬局薬剤業務に関する意識調査(設問6-A後半)の集計結果。
 a) 主たる実施者として関与すべきであり、現在も大きく関与している、b) 主たる実施者として関与すべきであるが、現在はあまり関与していない、c) 現在、主たる実施者として大きく関与しているが、関与の必要性について検討すべきである、d) 現在、主たる実施者としてあまり関与しておらず、積極的に関与すべき役割では無いと考える、e) その他。

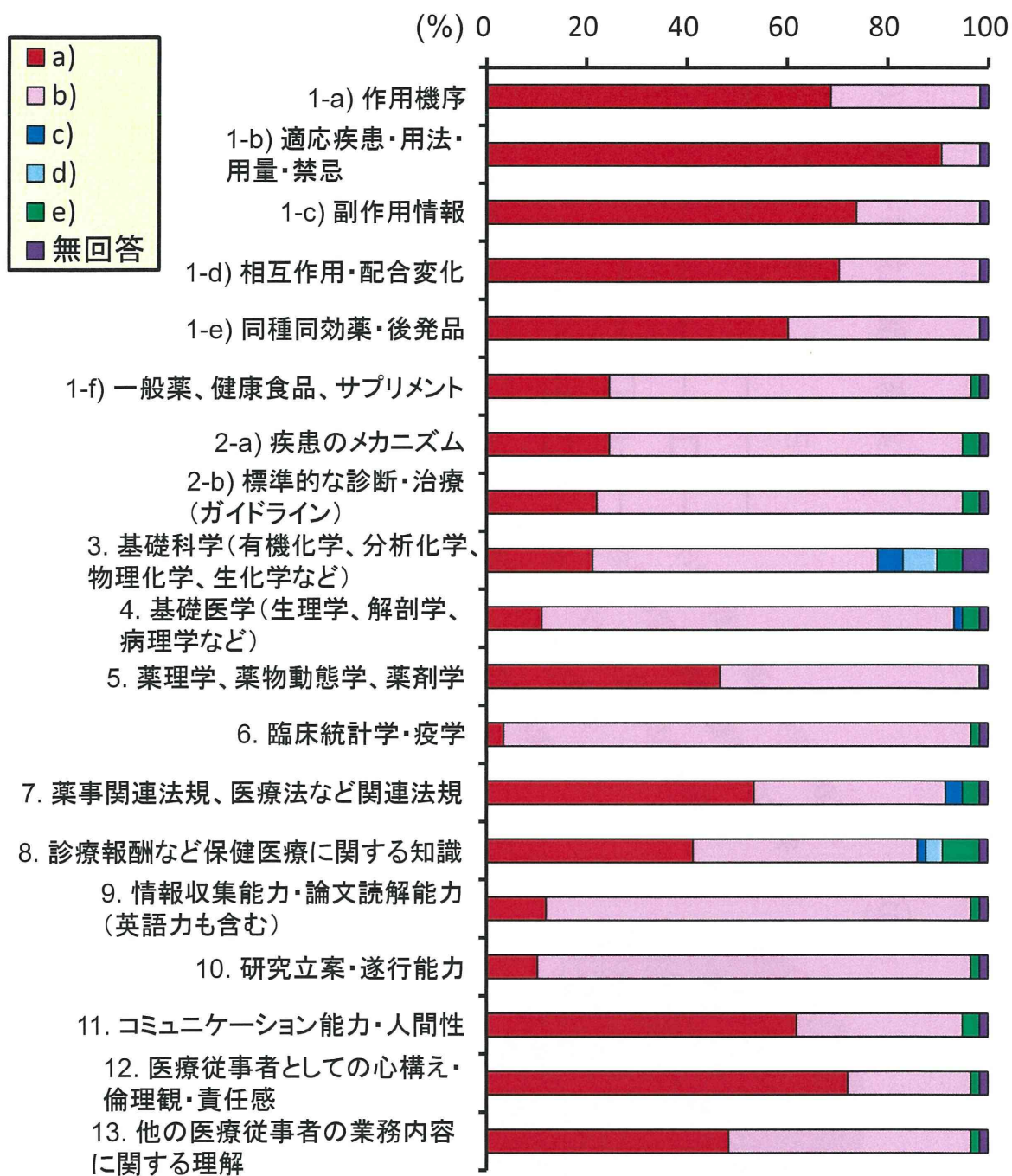


図6. 大学実務家教員に対する薬剤師に必要な能力・知識に関する意識調査(設問6-B)の集計結果。

a) 今後も必要な能力・知識であり、現時点で多くの薬剤師が十分な能力・知識を有している、b) 今後も必要な能力・知識であるが、現時点では十分な能力・知識を有する薬剤師は少ない、c) 多くの薬剤師が十分な能力・知識を有しているが、今後の薬剤師にとっての必要性は低いと思われる、d) 十分な能力・知識を有する薬剤師は少ないが、今後の薬剤師にとっての必要性も低いと思われる、e) その他。

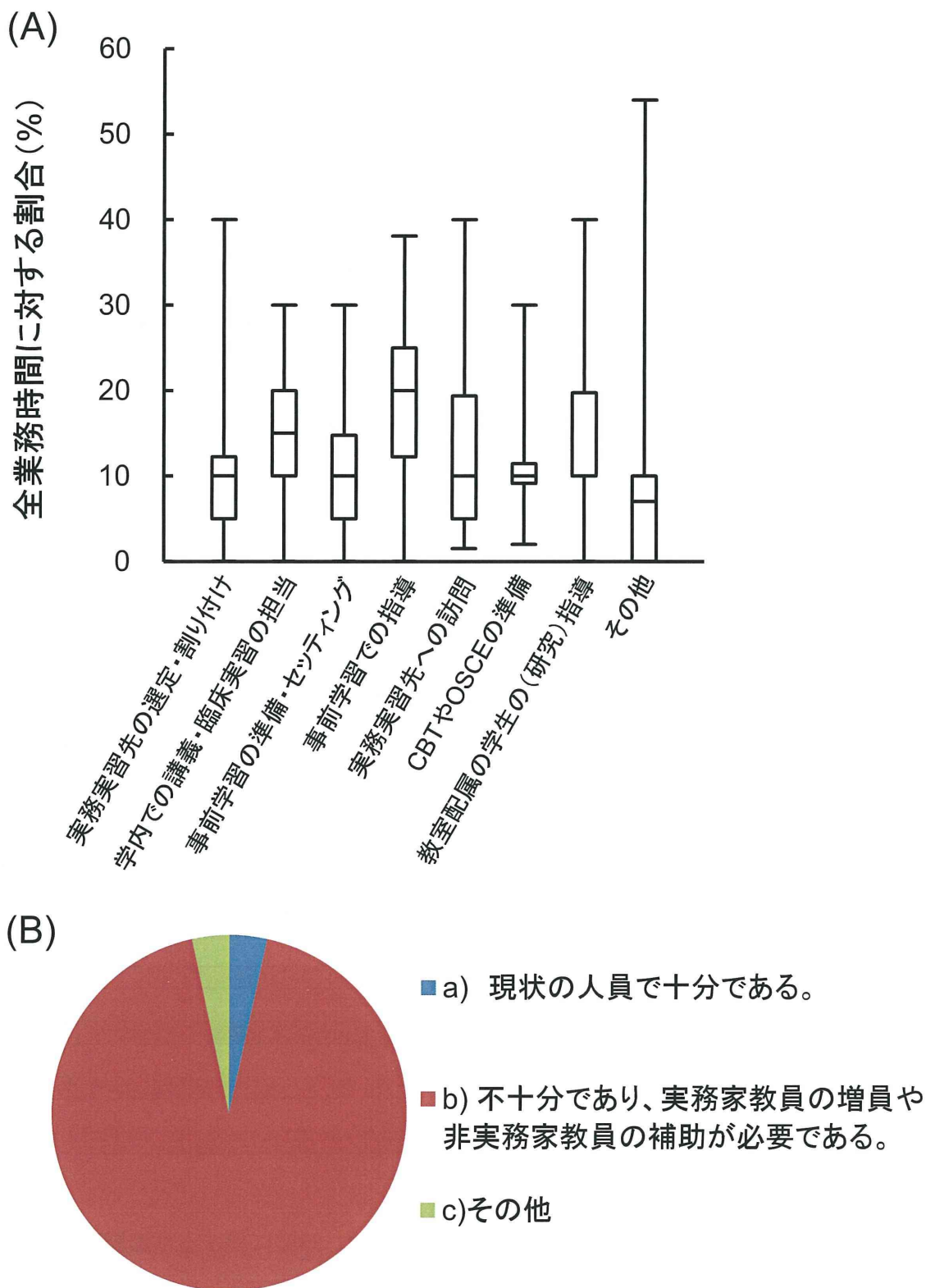


図7. (A) 各大学における実務家教員の業務内容と全業務時間に対する当該業務に要する時間の割合。(B) 実務家教員の人員数に関する認識 (n=59)。

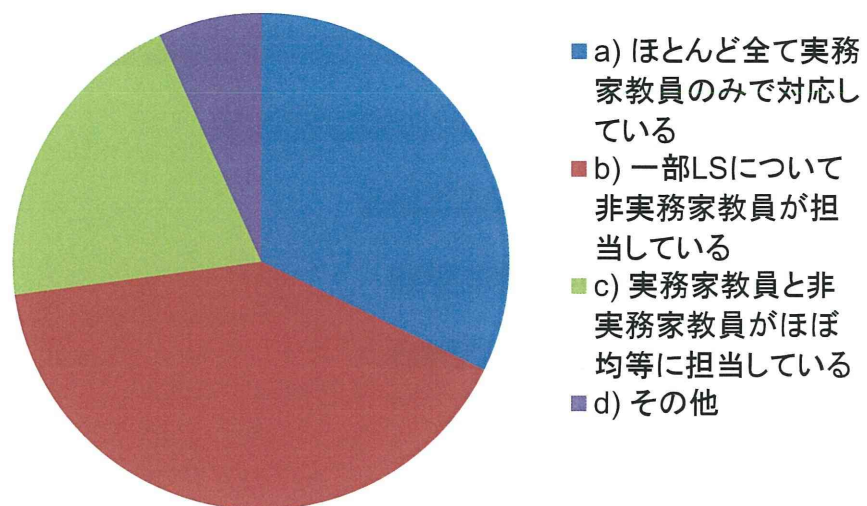
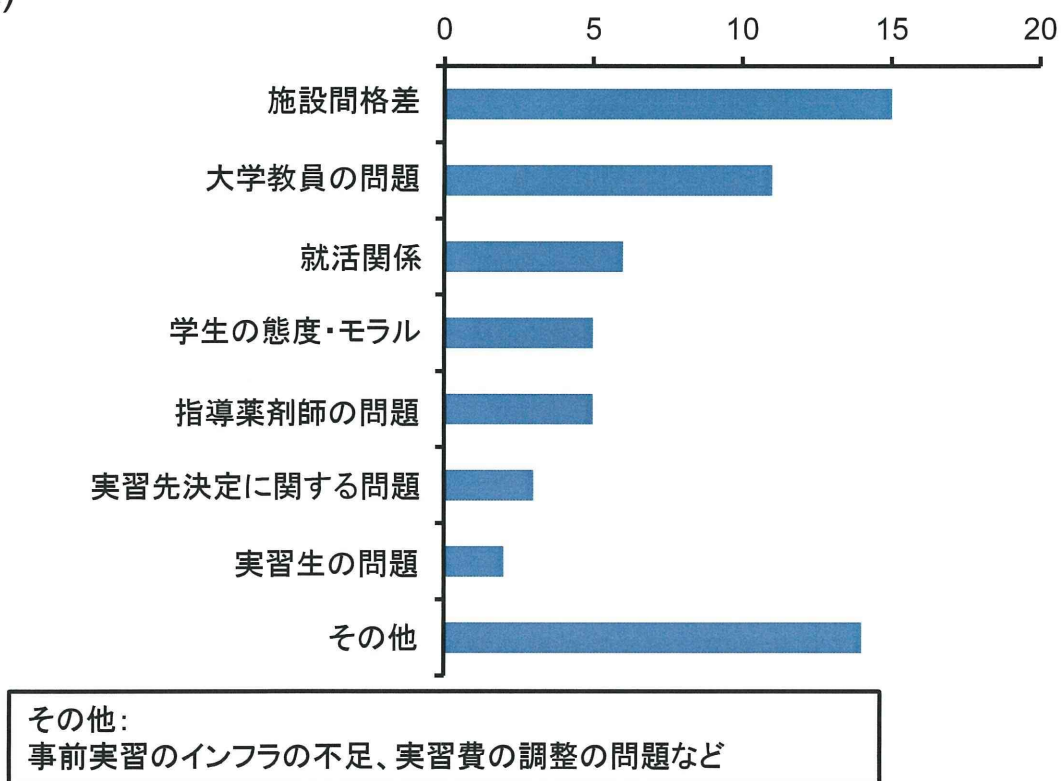


図8. 各大学における事前学習に対する非実務家教員の関与の詳細(n=59)。

(A)



(B)

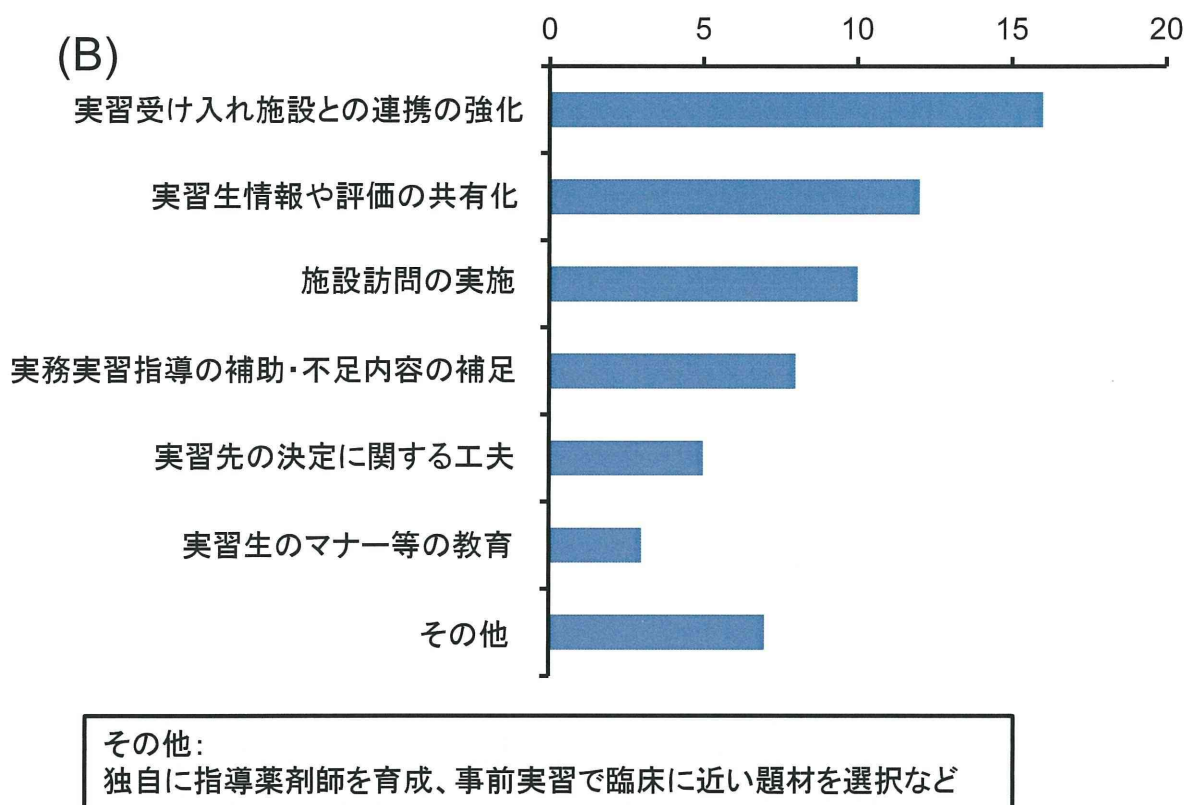


図9. (A) 各大学における実務実習の問題点や課題。(B) 各大学における実務実習で特に工夫している点。

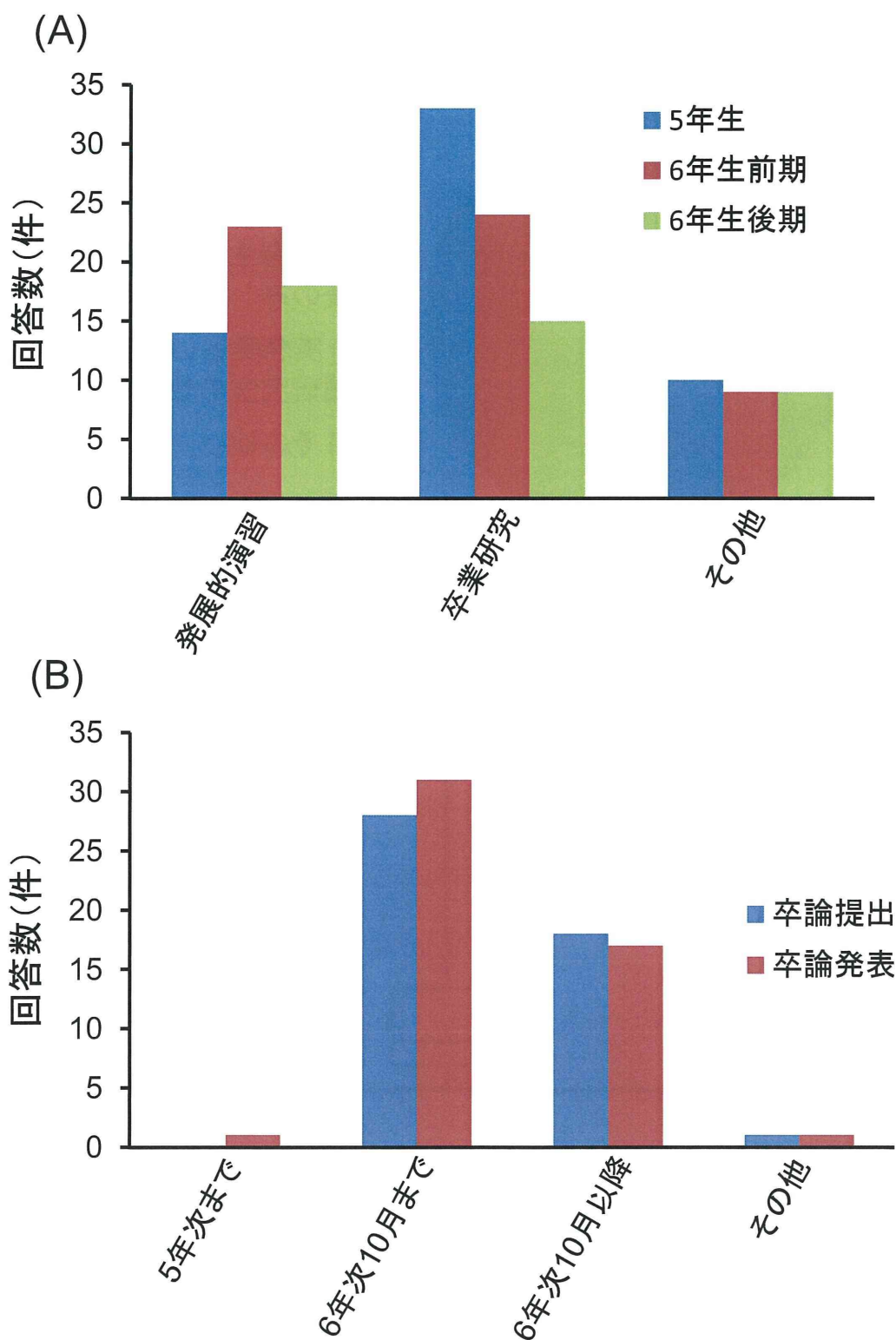


図10. 各大学における実務実習実施期間外の教育内容の集計結果。(A) 5年次、6年次前期、6年次後期における教育内容の推移。(B) 卒業論文発表および提出の時期。

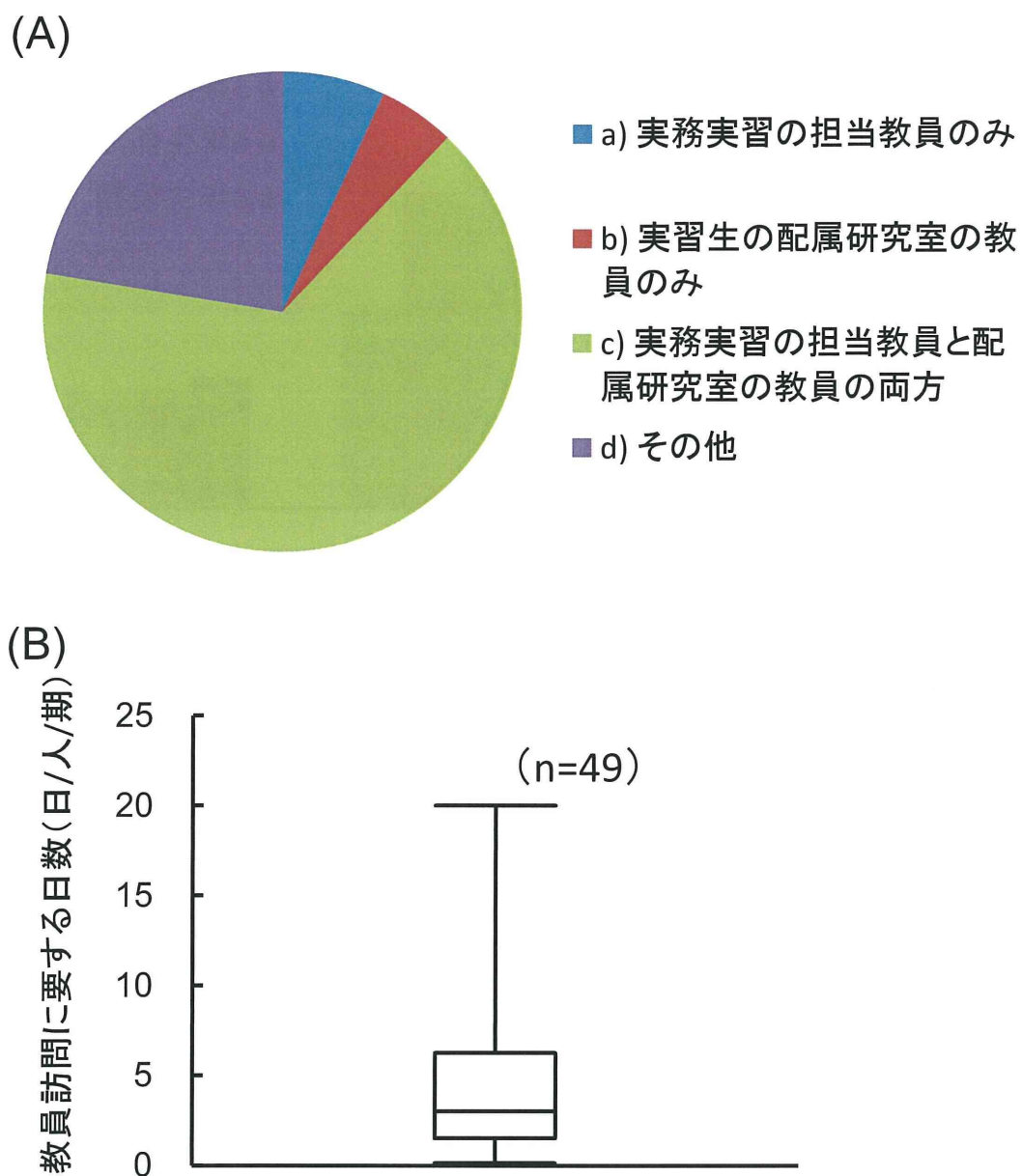
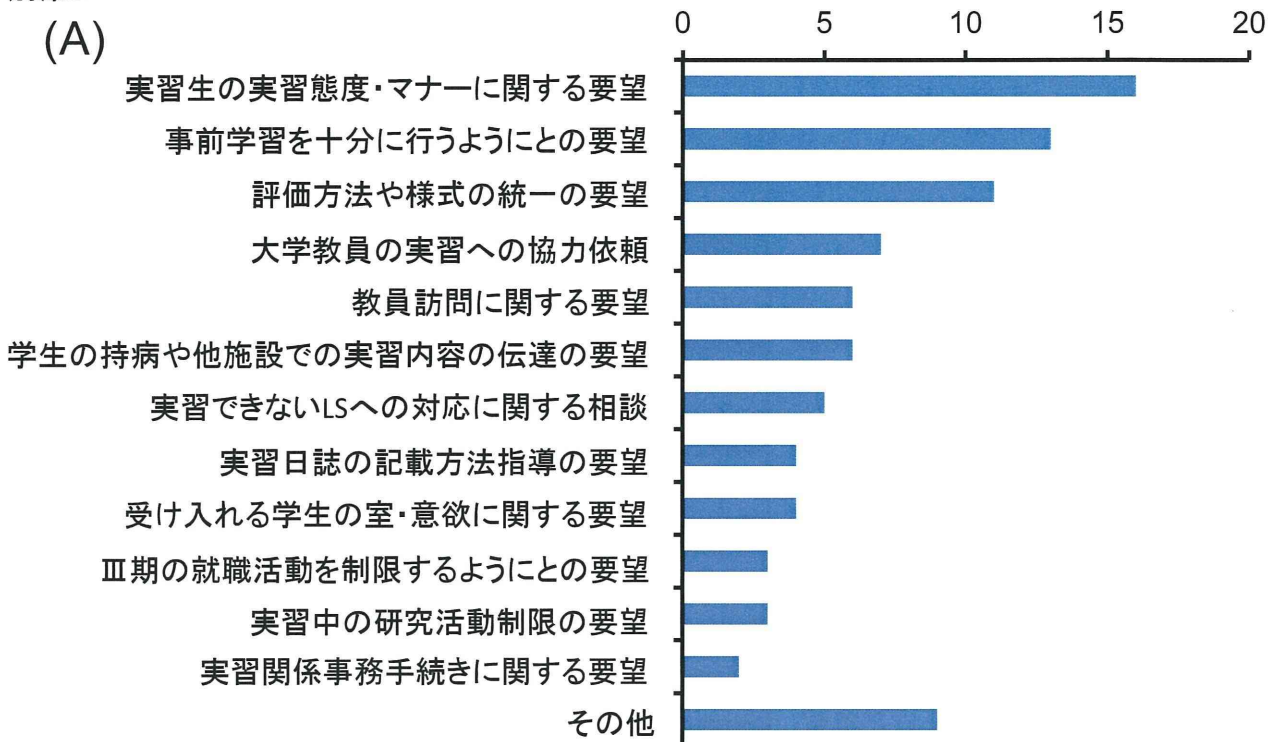


図11. 各大学における実習受入施設への教員訪問への対応状況の集計結果
 (A) 教員訪問時の対応教員の詳細。(B) 実務家教員が一期あたりに教員訪問に要する時間

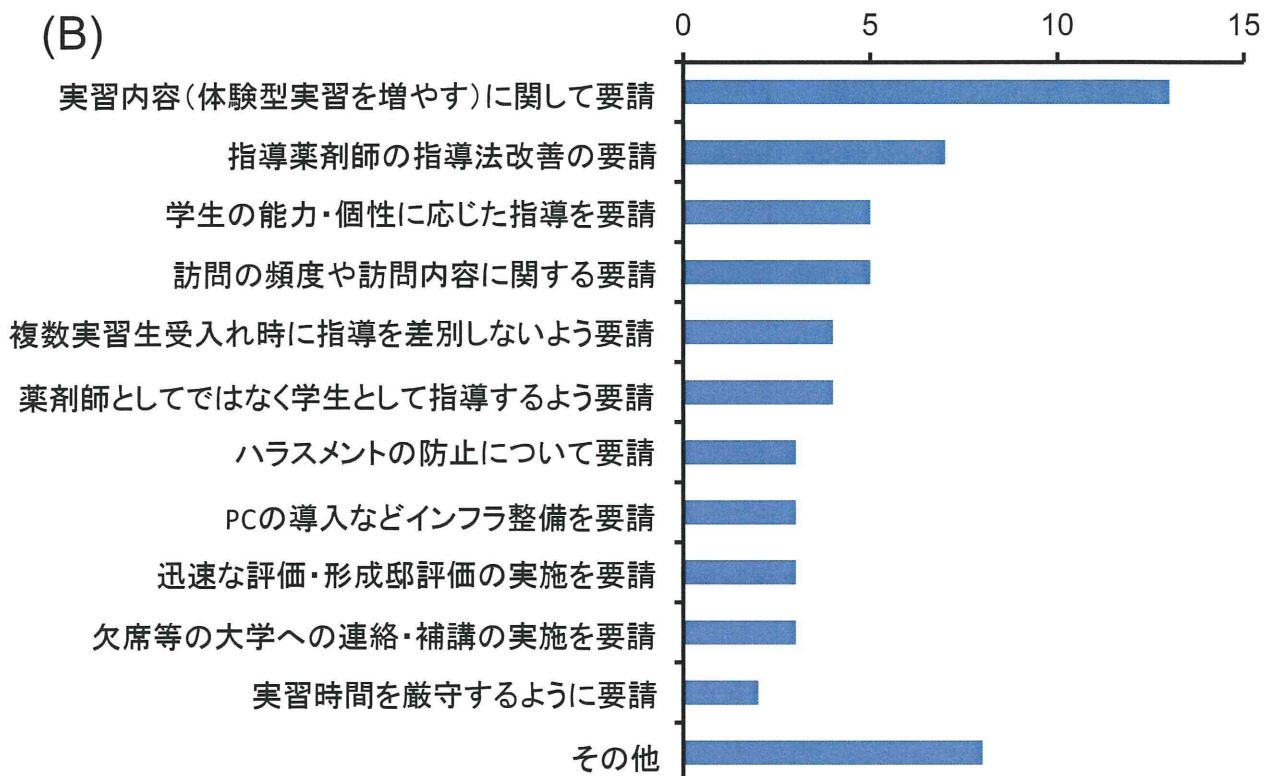
別添3

(A)



その他:
Ⅲ期のワクチン接種、指導薬剤師の異動時の対応など

(B)



その他:
指導薬剤師異動時の対応、実習受け入れ人数の増加など要望

図12. 教員訪問時に(A) 実習施設から要望された項目、および(B) 実習施設に要望した項目の集計結果

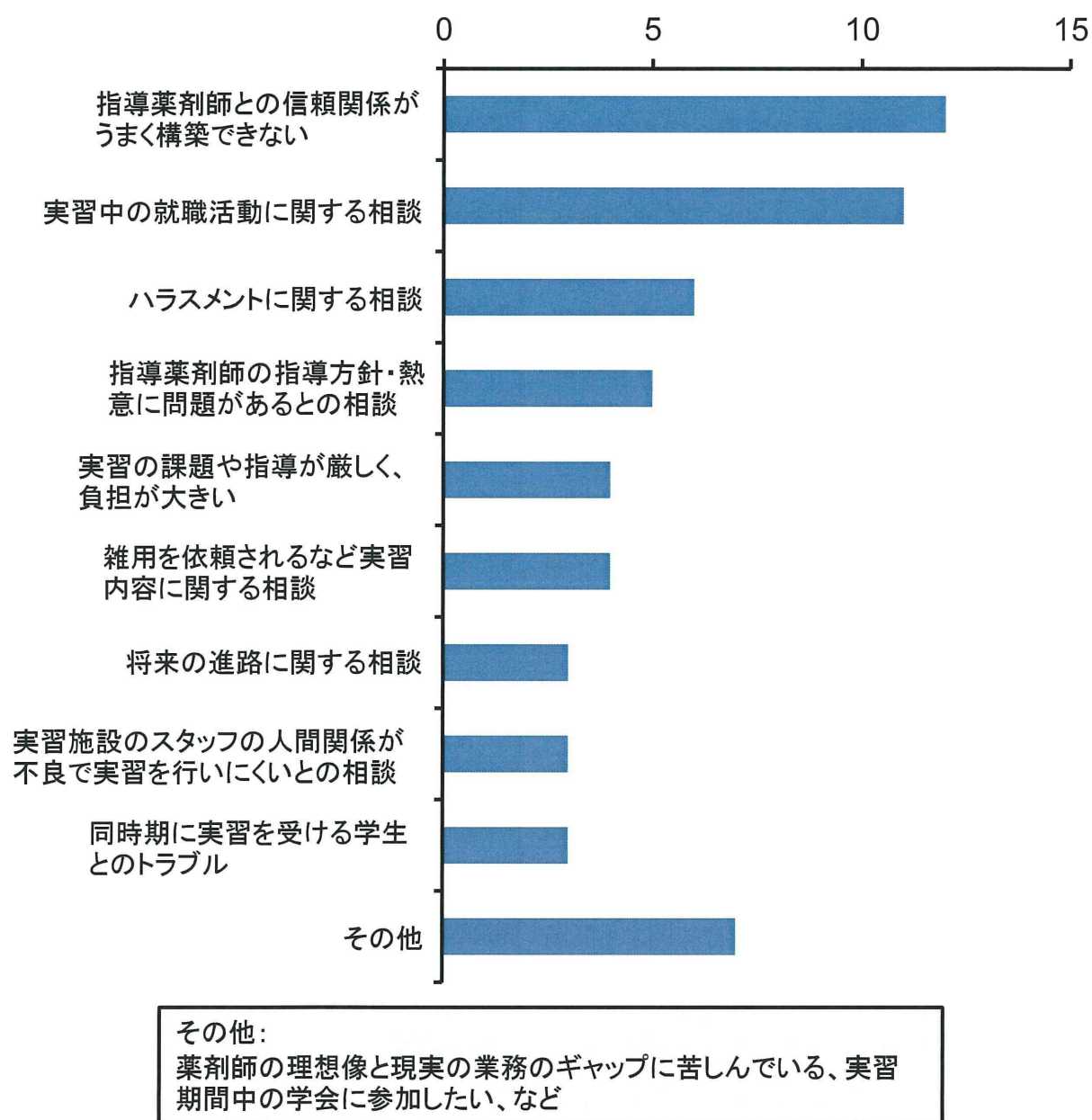


図13. 実務実習中・あるいは終了後に実習生から相談を受けた項目の集計結果